

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	言語教育体験雑記 〈便り〉
Author(s)	宮本, 邦彦
Citation	広大言語 , 7 : 81 - 83
Issue Date	1967-12-18
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046284">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046284</a>
Right	
Relation	



オン程度です。税金をとれば7,000ウォン程度になります。例えば7,000ウォンをもらう教授が勉強をするといえはそれはうそです。このごろ7,000ウォンをもっては、洋書を2さつ買えばそれだけです。米を買い金もないでしょう。こんな状態では勉強できる道理がありません。そして勉強をしない。そうすれば、学生へ何も与えるものはありません。そうすると、学生は先生をおおぎみて「あれは勉強もしない先生」というでしょう。先生の悪口をいう学生を先生が好むはずがありません。このようになると、先生がいても先生が目につらず、学生がいても学生が目につらない人間喪失の状態——これがまさしく大学の危機ということです。」

先生の冷遇、これが問題では、時間講師、国立大では1時間240ウォン、私立大300～400ウォン。かけもちで月40時間講師をしても（こうなると自分の勉強不可能）よくて、1,600ウォン、1人で生活しても15,000～2,000ウォンはあります。まして家族があればどうなりますか。みんなどんなに生活しているのやら不思議でたまりません。

## 言語教育体験雑記

宮本邦彦

卒業以来早くも7ヶ月の月日が過ぎてしまいました。私は四月以来、母校の広島学院中・高等学校に勤務して居ります。毎日の授業や、放課後はとても楽しく、時の経つのも忘れてしまおうです。毎週月曜日の職員会議だけは退屈で、「そんな事を一つ一つ相談しなくても、早く校長が決めてしまえば良いのに」などと、しょっちゅうボヤいています。

忙しいのをいい事に、このところ、勉強らしい勉強はほとんどしていません。全く恥づかしい次です。しかし、時々、社会科の先生に、シュメール語、サンスクリットなどに関して、いろいろと尋ねられることがあり、そのたびに、ノートやテキストを読み返したり、「もっと勉強しなければ……」と反省している有様です。しかし、言語学を専攻して良かったと思う事もしばしばあります。そして、その事を一人ひそかに誇りに思っています。

いつかの授業で、生徒が、It rains という表現に関して「It rains やIt is fine today などの文では、訳しもしない（日本語では用いない）のに、It がなぜ要るのですか」という意味の質問をしました。そこで、在学中に毎週悩まされていた“Havers”の“Syntax”に出ていた“Zeus üel”の一節を思い出し(S. ) 解り易く説明してや

った。また、この“Zeus ùεl”の例は、I am surprised のような「行為者不明の受動態」の説明をする時に関連現象の一つとして、ひきあいに出すことも出来そうである。

授業が少し早目に終ると、生徒は、たいてい「雑談」を要求してくる。自分の中学時代の失敗談をして聞かせる事もあるが、「少しでもためになる話を」と思って、印欧諸言語の類似性について、わかり易い具体的な語彙などをとりあげて説明したり、改めて暗記し直しておいた、ホーマーの詩を板書して、読んで聞かせる事もある。サンスクリット文字などは、社会科の授業でもめったに出て来ないので、生徒は大へん興味をもって聞いてくれる。七月中旬に、岡山で開かれていた「メソポタミア展」を見学に行った時には、楔形文字の彫まれた粘土板を目の前にして「先生が研究しているのは、このことですか」と生徒に言われて、何かすぐたいような妙な気持ちをした。

二期になり、ようやく授業にも慣れて来たので、授業をもう少し研究的に進めてみようと思い、「中学二年生における教材内容をどの程度深められ得るか」という、とんでもないことを考えています。私の学校では、英語の授業を「英語」と「E語」に分けています。「E語」の授業はSubstitution drill, Pronunciation, Reading, Conversationを中心にして、Native speaker が担当しており、「英語」は、新文型の文法的説明、及び英文解釈を中心に、日本人教師が担当しています。従って、私が担当している方は「英語」で、中2、中3を教えています。中3のテキストは、栄光学園が編集したEnglish Hour ですが、中2では、三省堂のThe Junior Crown (Book II) を使わせています。内容は大へんおもしろいものですが、cat という単語が出てから一ヶ月位先にやっとdogという単語が出てきたり、toothという単語が出てきて、teethが出て来ない、など、いろいろと不合理なところもあります。catが出てくればすぐにdogを、又toothといっしょにteethを教える事は、知識欲も旺盛で、頭に入り易い中学生にとっては何ら抵抗はないはずである。現在Book IIの才19課まで進んでおり、あと1ヶ月でBook IIIに入りますが、才17課と才18課で「受動態」を学習した時にも、いわゆる「現在・受動態」と「過去受動態」しか出ていませんでした。私は、既習の「未来時制」及び「進行形」等と関連させて(1)現在受動態 (2)現在進行形受動態 (3)過去受動態 (4)過去進行形受動態 (5)未来受動態 (6)未来進行形受動態を教え、さらに、by them, by us, by the people, 等の省略(e.g. English is spoken in America.)にもふれて、五単位時間教えた後で、100点満点の試験をしてみました。学年平均点は、いつもほとんど変わりなく、(81.5%)一応生徒は理解していることがわかりました。次に才19課で「現在完了」が出てきましたが、ここでも「能動態の現在完了」しか扱わ

れていないので、「受動態の現在完了」も導入しました。このようにすれば、既習の文型の反復練習期間を長くする事も出来るし、より広い応用力を見に付けさせる事が出来るわけです。英作文における表現力を豊かにするという点においても、この試みは一応成功でした。

以上の実験にも、問題点はあります。オ一に、低学年において、やたらに「受動態」に「能動態」の書きかえをやらせたり、文法的に深入りしすぎる事は、かえって、生徒の、英語に対する興味を失わせる危険性があります。オ二に、時間的な面で、十分に理解させるためには、余ゆうのあるカリキュラムを組んでおかなければならないという事、オ三に、内容が深くなるにつれて良く出来る生徒と出来ない生徒の間の学力差が大きく開くのではないか、という事です。いずれにしても、これらの問題はずっと長い時間をかけて調査すべき事柄であり、一回や二回の試験だけでは、結論は得られそうにありません。

## 消 息

- ☆ 小川二郎文学部長（英文）は、本年3月停年退職。後任の学部長は、金子金治郎先生（国文）である。
- ☆ 大学院で「古代フランス語」を講じて下さった中村義男先生（仏文）は、本年3月退職された。
- ☆ 伊東隆夫先生（東洋史）は、国際東洋学会議に出席のため、本年8月、アメリカ、ミシガン大学へ出張された。
- ☆ 谷口幸男先生（独語学）は、本年9月より1年間の予定で、ドイツのキール大学へ留学された。
- ☆ 1昨年も本言語学教室へ集中講義に来て下さった京都大学教授、泉井久之助先生は、本年8月28日より9月2日まで、ルーマニアのブカレストで開かれた才10回国際言語学会議に日本代表として出席された。
- ☆ 関本至先生は、本年8月より約3ヶ月間、トルコ、ギリシア、イタリア、フランス、ドイツ、イギリス、各国を訪問された。来年度の広大言語学会では、その海外旅行の裏話も聞けそうなので今から楽しみである。
- ☆ 吉川守先生は、本年8月、アメリカ、ミシガン大学での国際東洋学会議に出席された後、シカゴ大学での国際アッシリア学会にて研究発表をされた。